

國弘正雄著「國弘正雄の英語の学びかた」を読む

- 「只管朗読」(しかんろうどく)とは何かを考える -

國弘流鉄則

- (1) 英語を「只管朗読」(しかんろうどく)することこそが、英語を習得する唯一の道である。
* 只管朗読(しかんろうどく)とは、ひと通り意味のわかった英文をひたすら音読すること。
- (2) 英語は、あらゆる分野の技能を世界に発信する「重要なルーツ」である。必ずやっつけてよかったと思うことがある。
- (3) 外国語を使いこなすためには、理屈を知るだけの勉強では無意味。音読を通じて「体にすり込む」ことで使える技能に変わる。
- (4) 中学、高校の教科書の英文は、必須(ひっす)事項が網羅(もうら)されており、「只管朗読」(しかんろうどく)において最高の教材である。英文を覚えてしまうくらいまで繰り返し音読すべし。
- (5) 「只管朗読」(しかんろうどく)は、英文を日本語に訳さずに直接イメージ化することを強制する、直接訓練である。
- (6) 英語の思考パターンは左から右である。「只管朗読」(しかんろうどく)することによって、返り読みの悪癖(あくへき)を取り除くべし。
- (7) 音読する際には、文法や意味で区切られた「かたまりごとに左から右へ」英文を理解すべし。
- (8) 文字にとらわれすぎず、「化学反応」を意識しながらネイティブ・スピーカーの音声をまねして音読すれば、スピーキングの力とリスニングの力が向上する。
- (9) 重要な「型」を含む英文を「只管朗読」(しかんろうどく)し、体にすり込めば、瞬時にパーツを組み替え、自分の意思を手や口で表現できる「活用自在」の能力が身につく。
- (10) 文法は、日本人が英語を使いこなすための重要な「型」である。音読により、条件反射的に使える知識として試行錯誤を繰り返しながら着実に積み上げていくべし。
- (11) リスニングの能力を磨くには、英文をすらすら読む力に加え、正しい発音の能力を身につけなければならない。
メディアを活用し、ネイティブ・スピーカーの音声をまねて音読すべし。
- (12) <只管朗読>(しかんろうどく)の教材は、意味や構造が解説や授業を通じて「よくわかったもの」が最適である。
- (13) 音読をするとき模範となる音声は、初・中級者なら「ゆっくり・はっきり」発音されたもの。上級者なら「音量の大きなもの」を選ぶべし。
- (14) 音読は、生活の中に取り込んで、毎日少しずつでもコンスタントに楽しみながら続けることが重要である。
- (15) 発音記号など便利な発音の技術を学び、徐々にネイティブ・スピーカーの音声に自分の音声を近づけるべし。

- (16)外国語の真の能力である「運動記憶」を習得するためには、「書き写し」や「ディクテーション」で全感覚を総動員せよ。
- (17)単語はカード化して例文ごとに整理せよ。
また、何度も反復して繰り返しながら、着実に記憶量を増やすべし。
- (18)「音読」こそ英語を習得するためのシンプルかつ究極の方法である。楽しさを実感するまで繰り返すべし。
- (19)現在の有利な状況をおおいに利用して、音読法でマスターした英語を積極的に使い、現場で技術を磨くべし。
- (20)音読法で身につけた英語は、実際の場で大胆かつ細心に使いこなすべし。

さあ音読してみよう

ステップ(1) テキストを決める

- ・できれば音声(CDなど)がついているもの
- ・中学1～3年レベルのもの
- ・ざっと見て内容がやさしそうなもの
- ・量の少ないもの

ステップ(2) 音声を聞きながら、テキストの意味を理解する

- ・「区切りのグループ」を意識する
- ・最低でも10回は聞く
- ・聞いた回数は記憶しておく

ステップ(3) 単語の発音練習をする

- ・外国語の発音というのはむずかしいもので、最初から文章単位でおこなわず、単語レベルで発音を鍛(きた)えて下さい

ステップ(4) 文章を音読する

- ・「区切りのグループ」を意識する
- ・細かいことを気にせず、楽しみながら
- ・まちがいを恐れずに、大きな声で元気よく

ステップ(5) ステップ(2)に戻って音声を聞き、再度ステップ(4)に戻り音読する

*回数を重ねていくうちに、テキストの音声に近い音で「音読」ができるようになっていきます。
また、日本語訳に頼らずに、英文の意味が文頭から自然にわかるようになり、頭の中に英文のイメージが描けるようになってきます。